

H28. 1. 26

Dr. 和の町医者日記



「認知症の基礎知識」シリーズ⑥

「認知症の人は病識がない」と昔、専門家に教わりましたが、本当にそうでしょうか。かなり進行すれば自分が認知症であるという認識がなくなる人はおられます。しかし、かなり進行した認知症の人でも親しく話しているうちに「私、オツムがパーになってね」などと言い、自分が認知症であることをちゃんと分かっている人が結構おられます。

ある日突然、認知症になるわけではありません。「いつの間にか、気付いたら認知症になっていた」というのが認知症です。大抵2〜3年程度、認知症予備軍の期間があり、生活の一部に支障をきたすようになって初めて、病的として扱われる状



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穩死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。57歳。

態になります。

認知症になっていく過程が一番分かるのは家族ではなく、本人自身です。昨日までできていた料理や化粧がどうもうまくできな。ゴルフのスコアの計算ができなくなる。買い物に行っ、お金の計算ができず、いつも通っている道に迷い、家に帰れなくなる。そんな自分の変化に気が付いたとき、誰でもがくせとなり、不安に襲われます。まさに自分が壊れていく感覚を味わうのです。誰かの助けを求めたくても、どうしてもプライドが邪魔をします。家族に医者へ連れて行かれてあれこれ質問されると、記憶力の低下を隠そうという本能が働きます。

「今朝、何を食べましたか？」と聞かれたら、誰だって「ばかにするな！」と腹が立ちます。でも本当に思い出せなかったら、ごまかそうとする。実際は食べれていなくても「ご飯を食べた」と。それを取り繕いと言います。決して嘘をついてるわけではありません。うまく思い出せないのが当たり障りのない返答をして、とりあえずその場を切り抜けようとしているのです。

考えてみれば、われわれの生活も日々、取り繕いだらけです。寝坊して会社に遅刻しても「電車が遅れて…」などと言いつつ、何をします。どんな人間でも、小さな嘘を一度もつかない日な

短期記憶 比較的短い秒単位の時間しか保持されない記憶。アメリカの心理学者のW・シエームズが「一次的記憶」と名づけた。復唱しないかぎり自動的に消滅するとされ、保持の長い長期記憶とは異なる機序であるとされる。

不安に自分していく壊れて

どないはず。われわれも日々、たくさん取り繕いながら、なんとか社会生活を送っているのです。

認知症の人は短期記憶が障害されるので、周囲の人にバレてしまっただけ。取り繕いは素晴らしい技術であり、知恵のようなものです。しかし、家族が「そんな嘘をついて！」と間違いを怒り飛ばした瞬間、プライドがひどく傷つきます。自分でも自覚している欠点を他人に指摘されたら腹が立つのは当たり前。まして、それを責め続ける家族がいれば、マイナスの感情がどんどん蓄積されます。

例えば嫁が「お母さん、〇〇してあげる」という態度で接している限り、その場では「ありがと」と取り繕っていても、徐々にそつした上下関係がとてもつらくなります。たまには自分も「ありがと」と言っても、それすら認められず、承認欲求があります。

絶対に逆転しそつもない相手との上下関係を一発で逆転する方法があります。それは「嫁が財布を盗った」と自分が被害者になることで目的がかなえられる。そうした「関係性の逆襲」のことを医療用語では、被害妄想とか周辺症状と呼びます。そついった被害妄想や取り繕いは決して否定せず、笑顔でうまく受け止めることで気分は落ち着かれます。

被害妄想

兵庫 庫